

一般社団法人



日本看護研究学会 第46回学術集会

当事者とともに創る看護の知

オンデマンド配信期間：

会 期

2020年 9月28日(月)～11月8日(日)

会 場

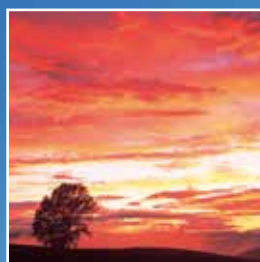
Web開催

学術集会長

城丸 瑞恵 札幌医科大学保健医療学部看護学科 教授

講演集

※2020年8月27日(木)28日(金)に札幌コンベンションセンターで開催予定でしたが変更となりました。



一般社団法人

日本看護研究学会

第46回学術集会

講演集

当事者とともに創る看護の知

オンデマンド配信期間

会 期 ● 2020年 9月28日(月) ～ 11月8日(日)

会 場 ● Web開催

学術集会長 ● 城丸 瑞恵

札幌医科大学 保健医療学部 看護学科 教授

※2020年8月27日(木)28日(金)に札幌コンベンションセンターで開催予定でしたが変更となりました。

学術集会事務局： 札幌医科大学 保健医療学部 看護学科

事務局長： 桑原 ゆみ

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

運 営 事 務 局： 株式会社コンベンションリンケージ

札幌コンベンションセンター内

〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目1番1号

TEL：011-817-1010 FAX：011-820-4300

E-mail: jsnr46@c-linkage.co.jp

株式会社正文舎

E-mail: sanko@jsnr46-2020.org

一般社団法人日本看護研究学会 第46回学術集会

ご 挨拶

一般社団法人日本看護研究学会 第46回学術集会

会 長 城丸 瑞恵

札幌医科大学保健医療学部 看護学科 教授

一般社団法人日本看護研究学会第46回学術集会は、2020年8月27日(木)・28日(金)の2日間にわたり札幌コンベンションセンターにおいて開催させていただく予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の収束のめどが立たない状況から皆様の安全を第一に考え、Webによるオンデマンド方式で開催することにいたしました。会場での開催を楽しみにしてくださった方々、また会場開催に向けて準備・協力してくださった方々の心情を考えると、大変残念であり申し訳なく思っております。心からお詫び申し上げるとともに、諸事情についてご理解いただければ幸いです。

会場開催はできませんが、特別講演、教育講演、シンポジウム、研究方法セミナー、市民公開講座などは下記の内容で、一定期間 Web により配信いたします。どうぞご視聴いただきますようお願い申し上げます。また、一般演題・交流集会などの抄録はホームページから閲覧可能です。

第46回大会のテーマは「当事者とともに創る看護の知」としました。当事者である患者・家族の声に耳を傾け、ともに考え行動することで創られる看護の知の現状と展望について、皆様と考え共有したいと思い学術集会のテーマにしました。

学術集会のプログラムでは、特別講演に日本学術会議副会長 三成美保氏から「人生100年時代における「ケアの権利」—日本学術会議『未来からの問い』が展望するジェンダー平等社会—」と題してご講演をいただきます。ジェンダー学の専門家として、また日本学術会議の副会長のお立場から、新型コロナウイルス感染症による社会的情勢も踏まえて人生100年時代のケアの権利についてご講演してくださいませ。教育講演1では北海道医療大学教授 向谷地生良氏から「当事者の専門知に学ぶ」をテーマにご講演をいただきます。この講演を通して当事者から学ぶ必要性・重要性について理解を深める機会になると考えています。教育講演2では北海道大学教授 湯浅万紀子氏に「思い出を未来へと紡ぐ博物館 —博物館体験の長期記憶の語りから探る博物館の意味—」をテーマに、「博物館」をキーワードにした研究内容についてご紹介いただき、研究の多様性と共通性の理解が深まるとともに看護の知を創造する上での多くの示唆をいただけたと思います。

シンポジウム1では「がんとともに生きる当事者が望む暮らしを支える」をテーマに竹生礼子氏(北海道医療大学)、下倉賢士氏(ホームケアクリニック札幌)、大島寿美子氏(北星学園大学)、森中かおり氏(特定非営利活動法人がんサポーター北海道)、シンポジウム2では「『自分らしく生きぬく』を支える —その人の願いと意思をかなえる終焉—」をテーマに松田哲子氏(旭川赤十字病院)、前野宏氏(札幌南徳洲会病院)、スーディ神崎和代氏(医療創生大学)、シンポジウム3では「若年認知症の当事者の思いを紡ぎ、共に考える支援 —家族会や介護事業所の実践、そして家族の経験をとらえて—」をテーマに平野憲子氏(NPO 法人北海道若年認知症の人と家族の会)、岡田京子氏(ライフケア彩り)に講師をお願いして研究者・実践者の立場からご講演いただきます。また各シンポジウムでは、がんや若年性認知症とともに生きる当事者・ご家族の方をシンポジストにお招きして、当事者・ご家族の方々と看護の知をどのように創るのか、意見交換が行われる予定です。この他、「看護の知を創る」ための研究方法に関して、研究方法セミナー1は「当事者研究のためのミックスドメソッド入門」を高木廣文氏(天使大学)、研究方法セミナー2は「当事者の語りをつむぐ —ナラティブ分析への誘い—」を宮坂道夫氏(新潟大学大学院)、研究方法セミナー3は「統計手法の基本から質問紙調査の実際まで」を樋之津史郎氏(札幌医科大学)に講師をお願いしております。各研究方法のご専門の方々から具体的で実践的な研究の考え方・手法についてお話をさせていただく予定で、皆様の研究活動のご参考になると考えています。さらに、市民公開講座として、バスケット界のレジェンドといわれる株式会社レバンガ北海道の折茂武彦氏に「年齢と身体能力の限界を超えて 北海道の為に選手として経営者として」と題してご講演いただきます。

本学術集会が、看護について考え発展させるための機会になることを願っております。

学術集会に参加される方へのご案内

1. 本学術集会は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による感染防止のため、オンデマンド配信と抄録掲載による WEB 開催とします。

オンデマンド配信期間：2020年9月28日(月)12:00～2020年11月8日(日)17:00(予定)

2. 参加申込・配信視聴方法について

- 1) 学術集会ホームページより参加登録を行ってください。

参加登録期間：2020年10月8日(木)23時59分まで

参加登録ページ URL：<https://www.jsnr46-2020.org/registration/>

参加区分	参加費
会 員	10,000円
非会員	12,000円
学 生	3,000円

※「学生」は、大学院生および看護師資格を有する研修学校生などは含みません。

※ 入会手続き中に参加登録をされる場合は、「会員登録中」として参加登録ができます。

その場合、会員番号入力欄に9999とご入力ください。

※ 会員申し込みは日本看護研究学会ホームページから手続きができます。

一般社団法人日本看護研究学会事務局(株式会社ガリレオ内)

E-mail：g027jsnr-support@ml.gakkai.ne.jp

- 2) 参加申込並びに参加費のお支払いが完了された方に対して、個別に割り当てられた Web 視聴用の ID・パスワードを運営事務局よりメールでご案内します。

- 3) 学術集会ホームページ上でオンデマンド配信の視聴ページへアクセスし、ID・パスワードを入力することで視聴が出来ます。なお、配信期間は 2020 年 9 月 28 日(月)～11 月 8 日(日)までの42日間を予定しております。

オンデマンド配信の視聴ページは後日学術集会 HP 上にて公開いたします。

3. 学術集会参加証・プログラム集について

7月末日までに参加登録された学会員の方へは、9月上旬のプログラム集送付の際に参加証を同封します。それ以外の方へは9月上旬以降順次送付します。なお、講演集の販売は行いません。

4. 禁止・留意事項

- 1) サイト内に掲載されている全てのコンテンツの無断撮影、閲覧端末のスクリーンショット機能等を用いた記録や保存、ダウンロード、他サイトへの転載等は、かたく禁止します。
- 2) 第三者への視聴 ID・パスワードの譲渡・共有はご遠慮ください。視聴をする場合は、必ず参加登録をお済ませください。
- 3) ご視聴にあたっては、指定のブラウザ(Edge / Firefox / Chrome / Safari)をご利用ください。アクセスが集中すると、指定ブラウザをご利用の場合でも、動画再生にお時間がかかる場合がございます。予めご了承ください。

詳細は別途学術集会ホームページ上でご案内いたします。

5. オンデマンド配信・抄録掲載プログラム

セッション名	実施形式
会長講演	収録した講演を Web 配信いたします。
特別講演	
教育講演1・2	
シンポジウム1・2・3	
研究法セミナー1・2・3	
市民公開講座	
共催セミナー	
学会特別企画1・2	
看護薬理学公開セミナー	
奨学会研究発表	
交流集会	学術集会ホームページに抄録を掲載いたします。

【座長・演者の皆様へ】

1. オンデマンド配信セッションの収録について

詳細は主催者より個別にご連絡いたします。

2. 一般演題の演者の皆様へ

一般演題および交流集会は講演集への抄録掲載をもって発表クレジットが付与されます。演題が採択された筆頭発表者は参加登録をお願いいたします。

3. 単位申請について

本学会への参加ならびに発表に関わる単位申請については、各単位の認定団体へお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

プログラム

会長講演

座長：泊 祐子（関西福祉大学大学院 看護学研究科 教授）

当事者とともに創る看護の知

城丸 瑞恵（札幌医科大学 保健医療学部 看護学科 教授）

特別講演

座長：城丸 瑞恵（札幌医科大学 保健医療学部 看護学科 教授）

人生100年時代における「ケアの権利」 —日本学術会議『未来からの問い』が展望するジェンダー平等社会—

三成 美保（奈良女子大学 副学長 教授 / 日本学術会議 副会長）

教育講演 1

座長：榊 恵子（神奈川県立保健福祉大学 教授）

当事者の専門知に学ぶ

向谷地 生良（北海道医療大学 看護福祉学研究科 教授）

教育講演 2

座長：樋之津 淳子（札幌市立大学 看護学部 教授）

思い出を未来へと紡ぐ博物館 —博物館体験の長期記憶の語りから探る博物館の意味—

湯浅 万紀子（北海道大学 総合博物館 教授）

シンポジウム1

座長：鷺見 尚己（北海道大学大学院 保健科学研究院 准教授）

田中 いずみ（手稲溪仁会病院 看護部長・副院長）

がんとともに生きる当事者が望む暮らしを支える

シンポジスト：竹生 礼子（北海道医療大学 看護福祉学部 看護学科 教授）

下倉 賢士（医療法人徳洲会 ホームケアクリニック札幌
医療相談室 医療ソーシャルワーカー係長）

大島 寿美子（北星学園大学 文学部 心理・応用コミュニケーション学科 教授
特定非営利活動法人がんサポーター北海道 理事長）

森中 かおり（特定非営利活動法人がんサポーター北海道 会員）

シンポジウム2

座長：上田 順子（公益社団法人 北海道看護協会 会長）

村中 沙織（札幌医科大学附属病院 急性・重症患者看護専門看護師）

「自分らしく生きぬく」を支える —その人の願いと意思をかなえる終焉—

シンポジスト：松田 哲子（旭川赤十字病院 看護副部長）

前野 宏（医療法人徳洲会 札幌南徳洲会病院 総長）

当事者家族

スーディ 神崎 和代（医療創生大学 教授／札幌市立大学 名誉教授）

シンポジウム3

座長：小澤 芳子（天使大学 看護栄養学部 看護学科 教授）

長田 千穂（市立札幌病院 地域連携センター 地域連携・入退院支援課長）

若年認知症の当事者の思いを紡ぎ、共に考える支援 —家族会や介護事業所の実践、そして家族の経験をとおして—

シンポジスト：平野 憲子（NPO 法人 北海道若年認知症の人と家族の会 事務局長）

NPO 法人北海道若年認知症の人と家族の会 家族

岡田 京子（ライフケア彩り 代表取締役
認知症対応型デイサービスいろどり 管理者（看護師））

研究方法セミナー1

座長：長谷川 真澄（札幌医科大学 保健医療学部 教授）

当事者研究のためのミックスドメソッド入門

高木 廣文（天使大学 特任教授）

研究方法セミナー2

座長：三国 久美（北海道医療大学 看護福祉学部 教授）

当事者の語りをつむぐ ーナラティブ分析への誘いー

宮坂 道夫（新潟大学大学院 保健学研究科 教授）

研究方法セミナー3

座長：高橋 順子（天使大学 看護栄養学部 看護学科 准教授）

統計手法の基本から質問紙調査の実際まで

樋之津 史郎（札幌医科大学 医学部 医療統計学 教授）

市民公開講座

座長：玉井 瑠理子（市立千歳市民病院 看護部長）

年齢と身体能力の限界を超えて北海道のために選手として経営者として

折茂 武彦（株式会社レバンガ北海道 代表取締役社長）

共催セミナー

演者紹介：木下 浩一（一般財団法人電気安全環境研究所電磁界情報センター）

電磁過敏症って本当にあるの？ ーWHO の見解を紹介しますー

大久保 千代次（一般財団法人 電気安全環境研究所 電磁界情報センター 所長）

協賛：一般財団法人電気安全環境研究所 電磁界情報センター

- 1 看護保険連合 WG 障がい児プロジェクト
障がい児と家族の暮らしを支える訪問看護の礎となる診療報酬の拡大(2)
泊 祐子, 市川 百香里, 遠渡 絹代, 部谷 知佐恵, 濱田 裕子, 岡田 摩理,
赤羽根 章子, 竹村 淳子

- 2 研究倫理委員会
本会の利益相反に関する指針と倫理
山勢 博彰(山口大学大学院医学系研究科)

奨学会研究発表

座長：阿部 幸恵(東京医科大学 医学部 看護学科 教授)

- 1 在宅療養中の認知症高齢者の主介護者に対する
呼吸法による睡眠の質改善の評価
近藤 由香(群馬大学大学院 保健学研究科)

- 2 臨床研究の研究対象者となる患者へのケアに関する研究
—臨床研究の研究対象者となった人々へのインタビューを通して—
北尾 良太(東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 看護科学域 博士後期課程)

看護薬理学公開セミナー

座長：畠山 誠(札幌心臓血管クリニック 看護部主任 皮膚・排泄ケア認定看護師)

慢性疼痛と薬物療法

南 雅文(北海道大学大学院 薬学研究院 薬理学研究室 教授)

交流集会 1

北海道の地方都市に勤務する救急看護師が抱く困難に対する 広域連携支援モデル構築の試み —アクションリサーチの活用した協働的取り組み—

発表者：牧野 夏子（札幌医科大学附属病院）
神田 直樹（北海道医療大学 看護福祉学部）
内田 裕美（札幌医科大学附属病院）
田口 裕紀子（札幌医科大学 保健医療学部）
津川 久仁江（名寄市立総合病院）
春名 純平（札幌医科大学附属病院）
門間 正子（日本医療大学 保健医療学部）
源本 尚美（市立札幌病院）
城丸 瑞恵（札幌医科大学 保健医療学部）

交流集会 2

一般病床における身体拘束最小化のあり方を考える

発表者：桐山 啓一郎（朝日大学保健医療学部 看護学科）
小島 愛子（岐阜大学医学部 看護学科）
松井 陽子（朝日大学保健医療学部 看護学科）
矢吹 明子（朝日大学保健医療学部 看護学科）

交流集会 3

「健康と病いの語りデータベース」の当事者の語り（ナラティブ）から看護を創造する —DIPEX-Japan 語りをを用いた教育実践事例—

発表者：佐藤 幹代（自治医科大学 看護学部・
特定認定非営利活動法人健康と病いの語り ディベックス・ジャパン）
瀬戸山 陽子（東京医科大学 教育 IR センター・
特定認定非営利活動法人健康と病いの語り ディベックス・ジャパン）
和田 恵美子（四天王寺大学 看護学部・
特定認定非営利活動法人健康と病いの語り ディベックス・ジャパン）
高橋 奈津子（聖路加国際大学・
特定認定非営利活動法人健康と病いの語り ディベックス・ジャパン）
いとう たけひこ（和光大学 現代人間学部・
特定認定非営利活動法人健康と病いの語り ディベックス・ジャパン）
横井 郁子（東邦大学 看護学部・
特定認定非営利活動法人健康と病いの語り ディベックス・ジャパン）
原田 雅義（姫路獨協大学 看護学部看護学科・
特定認定非営利活動法人健康と病いの語り ディベックス・ジャパン）

交流集会4

学生の思考をつなげるシミュレーション教育 ～ Web教材「仮想都市ミッションタウン」の活用から～

発表者：藤野 ユリ子（福岡女学院看護大学 看護学部）

八尋 陽子（福岡女学院看護大学 看護学部）

山田 小織（福岡女学院看護大学 看護学部）

交流集会5

在宅で生活する医療的ケア児の成長・発達を見据えた看護

発表者：義村 冷子（旭川荘療育・医療センター）

村下 志保子（旭川荘療育・医療センター）

澁谷 徳子（旭川荘療育・医療センター）

大月 道子（旭川荘療育・医療センター）

山田 景子（岡山県立岡山支援学校）

交流集会6

地域包括ケアを担う人材育成：地域住民と共に育てる教育プログラムの開発

発表者：升田 由美子（旭川医科大学医学部 看護学講座）

山根 由起子（旭川医科大学医学部 看護学講座）

塩川 幸子（旭川医科大学医学部 看護学講座）

森 浩美（旭川医科大学医学部 看護学講座）

神成 陽子（旭川医科大学医学部 看護学講座）

巻島 愛（旭川医科大学医学部 看護学講座）

矢田 しずえ（旭川医科大学医学部 看護学講座）

牧野 志津（旭川医科大学医学部 看護学講座）

山田 咲恵（旭川医科大学医学部 看護学講座）

児玉 真利子（旭川医科大学医学部 看護学講座）

服部 ユカリ（旭川医科大学医学部 看護学講座）

交流集会 7

若手看護系大学教員が直面している困難やニーズから考えるキャリア開発支援

発表者：山本 裕子（畿央大学）
村井 文江（常磐大学）
石原 あや（兵庫医療大学）
石村 佳代子（一宮研伸大学）
山田 律子（北海道医療大学）
鈴木 明子（城西国際大学）

交流集会 8

ギャンブル等依存症対策基本法の問題 — 診療報酬と看護のあり方について —

発表者：日下 修一（聖徳大学）

交流集会 9

臨床の知を新しい看護技術として対象者に還元するために （Miyajima 式腹部圧迫法の臨床応用をもとに）

発表者：宮島 多映子（大阪医科大学 看護学部）
村松 仁（東京医療保健大学 立川看護学部）
西山 忠博（大手前看護大学 看護学部）

交流集会 10

協同学習（LTD-NP）を活用した臨地実習最終カンファレンスの試み

発表者：織田 千賀子（藤田医科大学 保健衛生学部 看護学科）
堀川 眞知子（（専）京都中央看護保健大学校 看護保健学科）
内田 浩江（四條畷学園大学 看護学部 看護学科）
牧野 典子（中部大学 生命健康科学部 保健看護学科）

交流集会 11

妻の会から学ぶ！ 高次機能障害をかかえる人とその家族への支援

発表者：神島 滋子（札幌市立大学）
奥宮 暁子（北海道科学大学）
宮田 孝子（北海道文教大学）

交流集会 12

当事者とその家族の意思決定を支える家族ビリーフシステム理論の臨地応用

発表者：法橋 尚宏（神戸大学大学院 保健学研究科 家族看護学分野）
堀口 範奈（神戸大学大学院 保健学研究科 家族看護学分野）
林 綺婷（神戸大学大学院 保健学研究科 家族看護学分野）

交流集会 13

睡眠，わかりません！

発表者：若村 智子（京都大学大学院 医学研究科）
中本 五鈴（京都大学大学院 医学研究科）
初治 沙矢香（京都大学大学院 医学研究科）
堀田 佐知子（京都大学大学院 医学研究科）
矢野 理香（北海道大学大学院 保健科学研究院）
岡田 淳子（県立広島大学 保健福祉学部 看護学科）

交流集会 14

地域中心型医療を担う次世代型遠隔看護技術の創出

発表者：川口 孝泰（東京情報大学 看護学部）
伊藤 嘉章（東京情報大学 看護学部）
大石 朋子（東京情報大学 看護学部）
葛西 好美（東京情報大学 看護学部）
豊増 佳子（東京情報大学 看護学部）
今井 哲郎（長崎大学大学院 工学研究科）
高橋 道明（東京情報大学 総合情報学研究科）

交流集会 15

学士課程における看護実践能力育成の充実に向けた臨地実習の在り方について

発表者：四十竹 美千代（城西国際大学 看護学部）

佐々木 美喜（城西国際大学 看護学部）

川久保 悦子（城西国際大学 看護学部）

山田 万希子（城西国際大学 看護学部）

星野 聡子（城西国際大学 看護学部）

井上 映子（城西国際大学 看護学部）

交流集会 16

看護学生の主体的な学修参加を促す『ホワイトボード・ミーティング[®]』

発表者：内田 浩江（四條畷学園大学 看護学部 看護学科）

細川 つや子（四條畷学園大学 看護学部 看護学科）

織田 千賀子（藤田医科大学 保健衛生学部 看護学科）

奥西 春美（株式会社ひとまち）

一般演題プログラム

1. 基礎看護・看護技術

001 向老期の地域住民が演じた模擬患者が参加した2場面設定型成人看護学演習によるコミュニケーションスキルの学習効果

○馬場 才悟¹⁾, 森 雄太²⁾, 仙波 洋子³⁾, 梅木 彰子³⁾, 山本 真弓³⁾⁴⁾

1)西九州大学 看護学部, 2)帝京大学福岡医療技術学部 看護学科, 3)国際医療福祉大学 看護学部,
4)山陽学園大学 看護学部 看護学科

002 臥床洗髪の安全安楽な体位に関する文献検討

○石綿 啓子¹⁾, 柳田 徳美²⁾, 高倉 裕美子³⁾

1)日本医療科学大学 保健医療学部 看護学科, 2)帝京平成大学 ヒューマンケア学部 看護学科,
3)元日本医療科学大学 保健医療学部 看護学科

003 Transferring Art Movement Assessment Tool の腰部椎間板圧迫力推定ツールとしての改良

○田丸 朋子¹⁾, 本多 容子²⁾

1)武庫川女子大学 看護学部, 2)藍野大学 医療保健学部

004 体位変換における介助する側の腰痛に関する文献検討

○山本 澄子

岐阜保健大学 看護学部看護学科

005 ボディメカニクス技術の向上に対する撮影学習法の効果

○櫻井 美奈, 中村 昌子, 山住 康恵, 竹安 晶子, 中原 るり子

共立女子大学 看護学部

006 健康成人への精神的負荷による精神性発汗量と唾液アミラーゼ活性値の変化

○近藤 彰¹⁾³⁾, 坂 亮輔²⁾, 篠崎 恵美子²⁾, 伊藤 千晴²⁾

1)藤田医科大学 保健衛生学部 看護学科, 2)人間環境大学 看護学部, 3)人間環境大学 大学院看護学研究科

007 Miyajima 式腹部圧迫法 (Miyajima's abdominal pressing technique : MAPT) の臨床応用—自律神経への影響—

○宮島 多映子¹⁾, 村松 仁²⁾, 西山 忠博³⁾

1)大阪医科大学 看護学部, 2)東京医療保健大学 学立川看護学部, 3)大手前大学 国際看護学部

008 日本のグリセリン浣腸の研究の動向と安全な実施に向けた今後の課題

○栗田 愛¹⁾, 伊藤 千晴¹⁾, 篠崎 恵美子¹⁾, 藤井 徹也²⁾, 武田 利明³⁾

1)人間環境大学 看護学部, 2)豊橋創造, 3)岩手県立大学 (名誉教授)

009 SIBR (Structured Interdisciplinary Bedside Rounds) と日本の多職種回診との比較に関する文献研究

○印東 綾乃, 岡 美智代, 高橋 さつき

群馬大学大学院保健学研究科

010 採血実施時における外来看護師の患者の心理的苦痛を軽減するための配慮

○岡田 郁子, 長川 和美, 伊東 美穂

旭川大学 保健福祉学部 保健看護学科

011 腹部マッサージによる自然排便促進の効果に関する文献検討

○三毛 美恵子, 森嶋 道子, 小川 朋子, 佐上 裕子

学校法人天理よろづ相談所学園 天理医療大学 医療学部 看護学科

一般社団法人 日本看護研究学会 第46回学術集会

講演要旨

会 長 講 演

当事者とともに創る看護の知

城丸 瑞恵

札幌医科大学 保健医療学部 看護学科 教授

座長：泊 祐子（関西福祉大学大学院 看護学研究科 教授）

当事者とともに創る看護の知

城丸 瑞恵

札幌医科大学 保健医療学部 看護学科 教授

医療技術の進歩や少子化・超高齢社会、直近では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対応など看護を取り巻く環境は常に変化しています。また看護系大学の増加や高い専門性と優れた看護実践能力をもつ高度実践看護師の育成など質的量的な拡充が求められています。このような状況の中で、あらためて看護の知の意味や創造について考えてみました。

看護は「広義には人々の生活の中で営まれるケア，すなわち家庭や近隣における乳幼児，高齢者や虚弱児への世話等を含む…略…狭義には，保健師助産師看護師法に定められるところに則り，免許交付を受けた看護職による，保健医療福祉の様々な場で行われる実践」（日本看護協会編，2016）とされています。このケアの意味については，いろいろな解釈・説明があると思います。その中で，私は医療人類学者である Arthur Kleinman (2015) による「ケアを語る時，得てしてケアを受ける側のことやそのプロセスのことが忘れがちですが，ケアを受ける側のプロセスやケアをする側との相互性も視野に入れる必要」があるとの言葉が心に残っています。看護は看護をする対象の存在があって成り立ちます。ケアの受け手の当事者である患者・家族の体験を理解すること，看護職への患者の期待を察知すること，患者に寄り添いともに考えることが，看護の基本だと思います。また，患者・家族の声に真摯に向き合い，患者・家族と看護職の相互性の中で実践的な看護の知が創られると考えます。これらのことは，先ほどの Kleinman の言葉に触発され共鳴して，あらためて感じるところです。

仲間たちと“乳がん・婦人科がんの患者会”を定期的に開催しています。この患者会の参加者の中には，手術後リンパ浮腫が生じて弾性着衣を装着されている方がいらっしゃいます。患者会の際に，「スリーブをつけているとあせもで大変」「きついから手が痛くなる」などの声が聞かれ，治療に必要な弾性着衣が新たな苦痛をもたらしていることがわかりました。そこで，当事者である患者の語りを得るとともに当事者とともに弾性着衣装着方法に関する検証を行うことを始めました。この結果を分析して安楽な弾性着衣装着方法の構築を目指しています。このような活動をご紹介しながら，当事者との相互性の中で，当事者にとって活用できる看護の知の創造の意味・展望について考えてみたいと思います。

一般社団法人 日本看護研究学会 第46回学術集会

一般演題

001 向老期の地域住民が演じた模擬患者が参加した2場面設定型成人看護学演習によるコミュニケーションスキルの学習効果

○馬場 才悟¹⁾, 森 雄太²⁾, 仙波 洋子³⁾, 梅木 彰子³⁾, 山本 真弓³⁾⁴⁾

- 1) 西九州大学 看護学部,
- 2) 帝京大学福岡医療技術学部 看護学科,
- 3) 国際医療福祉大学 看護学部,
- 4) 山陽学園大学 看護学部 看護学科

【目的】急速な高齢社会が進む現代, 成人看護学の臨床実習でも向老期～老年期の患者を受け持つ傾向にある。特に向老期の患者は個々の健康問題の表れ方が大きく異なるため日々の些細な生活の変化に現れる健康上の問題が見逃されやすい。そのため看護学生もそのような患者の生活の変化になかなか目が向かず, コミュニケーション不足により患者の日々の変化にも気づかないことが成人看護学実習でも散見される。そこで今回は成人看護学演習で, 向老期の地域住民が演じた模擬患者(SP)が参加した演習(SP演習)を患者の治療経過と生活の変化が見える2場面設定型として2回実施し, SP演習実施後の看護コミュニケーションスキルの学習効果を明らかにする。

【方法】

1. 対象: 2018年4月～8月に開講された科目「成人慢性期・終末期看護方法論」においてSP演習を受講したA看護大学の2年生の学生106名のうち, アンケート協力で同意が得られた観察役学生を対象とした。
2. アンケート調査: 中谷・井田が開発した看護コミュニケーション尺度(CSN2)を使用した。CSN2は「信頼形成スキル」「支援形成スキル」の2因子構造で21質問項目から構成される看護師用の看護コミュニケーション尺度で6件法で回答する形式で得点が高いほど, 看護コミュニケーションスキルが高いことを表す。このCSN2を1回目と2回目のSP演習終了後に使用した。
3. 倫理的配慮: 所属施設の許可の下(19-Ith-050)で, 対象者に研究協力を依頼し, 協力の有無が成績へ一切影響しないこと, 無記名記載で学生の自由意思の尊重と匿名性を厳守することも説明し, このアンケートへの回答と提出をもって同意を確認した。

分析方法: 統計解析はSPSS ver.26.0を使用しMann-Whitney U-testを行い5%未満を有意とした。

【結果】CSN2の回収はSP演習1回目96名, 2回目84名であった。支援形成スキルの平均値は, SP演習1回(4.89±1.25)より2回目(5.27±0.88)で有意に上昇していた(p=.024)。

【考察】SP演習2回目で支援スキルが上昇し学習効果がみられた。今回の演習で学習できた知識を今後の臨床実習に活かし, 継続して学生自ら考えながらさらに高めていける教授学習方法の構築を検討していく必要がある。

002 臥床洗髪の安全安楽な体位に関する文献検討

○石綿 啓子¹⁾, 柳田 徳美²⁾, 高倉 裕美子³⁾

- 1) 日本医療科学大学 保健医療学部 看護学科,
- 2) 帝京平成大学 ヒューマンケア学部 看護学科,
- 3) 元日本医療科学大学 保健医療学部 看護学科

【目的】臥床患者の洗髪は, 洗髪用具(ケリーパッド・洗髪車)を用いて養成校の講義・演習・実習で広く実施される技術である。だが, ケリーパッドを用いた演習時に体位とケリーパッドの位置関係が安定せず, 体位の変更を余儀なくされる, あるいは排水が円滑に行われずに苦心する等が発生することは少なからず経験されている。そこで本研究の目的は, 臥床患者の洗髪における適切なケリーパッドの位置・患者の体位を明らかにすることである。

【方法】入手可能な基礎看護学の教科書9冊と参考書10冊計19冊について, 臥床患者の洗髪で体位とケリーパッドの位置関係の記述内容を収集し, 以下の①身体的位置 ②置く場所 ③頭部の位置指定 ④空気圧 ⑤肩枕の有無 ⑥膝下枕の有無 ⑦ケリーパッドと体位の順番 ⑧ケリーパッドの角度 ⑨排水溝の先端位置 ⑩ケリーパッド先端(排水口)の位置 ⑪排水方法11項目について比較検討した。

【結果】項目ごとに多い順で見ると, ①身体的位置は対角線8件, ベッドの片側に寄せるまたは頭部へ移動5件だった。②置く場所は患者の右側15件, 患者の左側2件だった。⑤肩枕の有無は挿入する9件, 記載なし7件だった。⑥膝下枕は挿入する10件でうち理由あり5件, 記載なし9件だった。⑦ケリーパッドと体位の順番は体位が先16件, 記載なし3件であった。⑧ケリーパッドの角度は, 緩い角度がついている8件, 直角が6件であった。⑨排水溝の先端位置はすべてバケツの中でうち写真のみ6件, 文と写真の併記5件, イラストのみ5件であった。⑩ケリーパッドの先端(排水口)の位置はマットレス上13件(写真8件イラスト5件), マットレスから出ている6件(写真4件イラスト2件)で, 説明の記述は見られなかった。⑪排水方法は両端を折り曲げて溝を作る8件, 記載なし6件であった。

③頭部の位置指定 ④空気圧では記載なしが最も多かった。結果として患者の体位, ケリーパッドの位置に関しての記述内容は差があり, 一定の基準は示されていない。

【考察】統一した基準がないことは経験則でありいつでも同じ成果を出せず根拠のある技術とは言い難く, 徒弟制度と変わらない。今後は各工程に対して根拠のある指標を作成する必要性が示唆された。

一般社団法人日本看護研究学会 第46回学術集会

運 営 組 織

(敬称略・五十音順)

〈学術集会長〉 城丸 瑞恵 (札幌医科大学保健医療学部)

〈事務局長〉 桑原 ゆみ (札幌医科大学保健医療学部)

〈事務局員〉 小木曾寛樹 (札幌医科大学保健医療学部) 城丸 瑞恵 (札幌医科大学保健医療学部)

澄川真珠子 (札幌医科大学保健医療学部) 田口裕紀子 (札幌医科大学保健医療学部)

仲田みぎわ (札幌医科大学保健医療学部) 堀口 雅美 (札幌医科大学保健医療学部)

〈企画委員長〉 堀口 雅美 (札幌医科大学保健医療学部)

〈企画委員〉 上田 順子 (北海道看護協会) 桑原 ゆみ (札幌医科大学保健医療学部)

鷺見 尚己 (北海道大学大学院保健科学研究所) 高橋 順子 (天使大学看護栄養学部)

樋之津淳子 (札幌市立大学看護学部) 三国 久美 (北海道医療大学看護福祉学部)

〈運営委員長〉 澄川真珠子 (札幌医科大学保健医療学部)

〈運営委員〉 上田 泉 (札幌医科大学保健医療学部) 岡田 尚美 (札幌医科大学保健医療学部)

小木曾寛樹 (札幌医科大学保健医療学部) 木島 輝美 (札幌医科大学保健医療学部)

高橋 美香 (社会医療法人医仁会 中村記念南病院) 田口裕紀子 (札幌医科大学保健医療学部)

鳥谷めぐみ (札幌医科大学保健医療学部) 松浦 有沙 (社会医療法人医仁会 中村記念病院)

〈広報委員長〉 仲田みぎわ (札幌医科大学保健医療学部)

〈広報委員〉 木村恵美子 (北海道文教大学人間科学部)

〈財務委員〉 村中 沙織 (札幌医科大学附属病院)

〈協力員〉 奈良美弥子 (札幌医科大学保健医療学部) 牧野 夏子 (札幌医科大学附属病院)

査読者一覧

(五十音順)

赤澤 千春 (大阪医科大学)	吾郷美奈恵 (島根県立大学)
甘佐 京子 (滋賀県立大学)	網島ひづる (兵庫医療大学)
荒川千登世 (滋賀県立大学)	池内 和代 (四国大学)
池田 清子 (神戸市看護大学)	石川ふみよ (上智大学)
市村久美子 (秀明大学)	井上 智子 (大阪大学)
岩佐 幸恵 (徳島大学)	岩脇 陽子 (京都府立医科大学)
上野 栄一 (福井大学)	宇佐美しおり (四天王寺大学)
宇都由美子 (鹿児島大学病院)	大金ひろみ (東京医療保健大学)
岡 美智代 (群馬大学大学院)	岡田 淳子 (県立広島大学)
岡田 由香 (日本福祉大学)	岡山 寧子 (同志社女子大学)
小野 美穂	柏木 公一 (国立看護大学校)
片岡 三佳 (三重大学大学院)	片山由加里 (同志社女子大学)
片山 陽子 (香川県立保健医療大学)	勝山貴美子 (横浜市立大学)
叶谷 由佳 (横浜市立大学)	亀岡 智美 (国立看護大学校)
茅島 江子 (秀明大学)	川島 和代
川西千恵美 (関西福祉大学)	神田 清子 (高崎健康福祉大学)
北 素子 (東京慈恵会医科大学)	北川 公子 (共立女子大学)
木立るり子 (弘前大学大学院)	楠葉 洋子 (国際医療福祉大学)
工藤 美子 (兵庫県立大学)	工藤せい子 (弘前大学大学院)
國方 弘子 (香川県立保健医療大学)	久米弥寿子 (武庫川女子大学)
グライナー智恵子 (神戸大学大学院)	国府 浩子 (熊本大学大学院)
越村 利恵 (大阪大学医学部附属病院)	小長谷百絵 (上智大学)
近藤 浩子 (群馬大学大学院)	近藤 由香 (群馬大学大学院)
佐伯 由香 (愛媛大学大学院)	酒井 明子 (福井大学)
佐々木真紀子 (秋田大学大学院)	佐藤 幸子 (山形大学)
島袋 香子 (北里大学)	清水 安子 (大阪大学大学院)
須釜 淳子 (金沢大学)	杉浦 太一 (名古屋女子大学)
杉山 敏子 (東北福祉大学)	鈴木みずえ (浜松医科大学)
鷺見 尚己 (北海道大学大学院)	陶山 啓子 (愛媛大学大学院)
關戸 啓子 (京都府立医科大学)	曾田 陽子 (愛知県立大学)

祖父江育子（広島大学大学院）
多喜田恵子（愛知医科大学）
竹熊 千晶（熊本保健科学大学）
田中美智子（宮崎県立看護大学）
豊田久美子（京都看護大学）
永嶋由理子（福岡県立大学）
中山登志子（千葉大学）
西田 佳世（聖カタリナ大学）
西村 ユミ（東京都立大学）
野口 眞弓（日本赤十字豊田看護大学）
乗松 貞子（愛媛大学大学院）
林 優子（関西医科大学）
原田 千鶴（大分大学）
樋之津淳子（札幌市立大学）
深田 順子（愛知県立大学）
古瀬みどり（山形大学大学院）
堀口 雅美（札幌医科大学）
真嶋由貴恵（大阪府立大学）
松下由美子（甲南女子大学）
三橋 睦子（久留米大学）
宮林 郁子（福岡大学）
村上 礼子（自治医科大学）
森本美智子（岡山大学大学院）
柳澤 理子（愛知県立大学）
山口 曜子（大阪市立大学大学院）
山勢 博彰（山口大学大学院）
山田 律子（北海道医療大学）
山田 聡子（日本赤十字豊田看護大学）
吉田 澄恵（東京医療保健大学）
吉本 知恵（香川県立保健医療大学）
渡部 節子（横浜市立大学）

高見沢恵美子（関西国際大学大学院）
竹内久美子（和洋女子大学）
田中マキ子（山口県立大学）
千田みゆき（埼玉医科大学大学院）
長家 智子（第一薬科大学）
中島 洋子（西九州大学）
植木野裕美（大阪府立大学大学院）
西田真寿美（四天王寺大学）
任 和子（京都大学大学院）
野戸 結花（弘前大学大学院）
早川 和生（大阪大学）
原 祥子（島根大学）
日高 艶子（聖マリア学院大学大学院）
百田 武司（日本赤十字広島看護大学）
藤田 君支（九州大学大学院）
古田加代子（愛知県立大学）
本田 育美（名古屋大学）
松浦 江美（長崎大学）
丸岡 直子（石川県立看護大学）
宮園 真美（福岡看護大学）
村井 文江（常磐大学）
百瀬由美子（愛知県立大学）
屋宜譜美子
山内 栄子（愛媛大学）
山口 桂子（日本福祉大学）
山田 一朗（臨床研究支援センター（Office AKI））
山田紀代美（名古屋市立大学大学院）
吉沢豊予子（東北大学大学院）
良村 貞子（北海道大学）
渡邊 順子（静岡県立大学大学院）

一般社団法人日本看護研究学会 第46回学術集会
後援／協賛／協力企業・団体（敬称略・五十音順）

本学術集会には、以下の企業・団体より、多大なご支援を賜りました。深く感謝いたします。

〈後 援〉

北海道公立大学法人 札幌医科大学
札幌市
公益社団法人 北海道看護協会

〈共催セミナー〉

一般財団法人 電気安全環境研究所 電磁界情報センター

〈広 告〉

アッヴィ合同会社
株式会社 医学書院
医歯薬出版株式会社
エーザイ株式会社
科研製薬株式会社
株式会社風間書房
医療法人溪仁会
社会医療法人 康和会 札幌しらかば台病院
医療法人札幌ハートセンター 札幌心臓血管クリニック
サノフィ株式会社
医療法人社団北燈会 すみかわ皮膚科アレルギークリニック
株式会社 竹山
中央法規出版株式会社
東洋羽毛北部販売株式会社 札幌営業所
鳥居薬品株式会社
株式会社 ナチュラルサイエンス
日本イーライリリー株式会社
日本事務器株式会社
ノバルティスファーマ株式会社
ハウジングオペレーションアーキテクト株式会社
医療法人東札幌病院
北海道オフィス・マシン株式会社
医療法人社団 札幌道都病院
株式会社ムトウ
株式会社メディックメディア

〈寄 付〉

中央コンピューターサービス株式会社
傳野 隆一
仲田 典子
塙 なぎさ